

ソフトバンク・テクノロジー 株式会社

第2四半期株主通信

2016.4.1—2016.9.30



情報革命で人々を幸せに

～技術の力で、未来をつくる～



TOP MESSAGE

トップメッセージ



代表取締役社長 CEO 阿多 親市

IoT時代に最も必要とされるクラウド企業へ

株主の皆さまへ

平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに第29期（2017年3月期）第2四半期の事業の概況や今後の取り組みについてご説明させていただきます。

大型公共案件、グループ向け案件が好調、通期目標に対し順調に進捗

「デジタルマーケティング」「プラットフォームソリューション」「クラウドシステム」のいずれの事業も好調に推移し、中でも、公共分野の大型クラウド開発案件の好調維持、ソフトバンクグループ向けシステム開発、運用・サービスの売上拡大、プラットフォームソリューション事業における機器販売の受注増加、シマンテックストア事業の伸長に牽引され、売上高は228.6億円（前年同期比＋16.4%）と大幅増収となりました。そしてこの増収効果により先行投資に伴う固定費増を吸収し、営業利益は6.8億円（同＋5.2%）を確保いたしました。

形態別では、運用・サービスが確実に右肩上がりで積み上がっていくことが安定成長の礎になると考えており、継続的な収益につなげるため、システム開発等のリスクの高い案件にも果敢に挑戦しております。通期業績は売上高470億円（前期比＋4.1%）、営業利益24億円（同＋4.0%）を計画しております。

「クラウドへの集約とIoTビジネスの開発」2つの戦略を中心に据え、さらなる進化へ

「ビジネスをトランスフォーメーションできる お客様のビジネスパートナーへ」の実現に向け、注力事業をクラウド上で融合し、ワンストップで提供する「クラウドへの集約」戦略を進めております。この3年間、お客様と共に情報システムのクラウド化を進め、日本国内におけるMicrosoft Azure 導入実績No.1という成果を残すことができました。今後はさらにセキュリティやビッグデータの技術を合わせた総合的なサービスを実現してまいります。

クラウドの通信連携に対応するのがIoTです。そこで当社グループの技術を融合し、セキュアな連携とデータ解析を提供する「IoTビジネスの開発」を基本戦略の2つ目に掲げております。産業界やITメーカー等において、設計・開発・製造・サービス提供・販売等様々な立場の企業が業界の枠組みを超えて相互に結びつき、共に事業を発展させていく仕組み（エコシステム）の形成が進んでおります。当社も積極的に各業界の企業と協業しながらIoTの可能性追求と当社独自ソリューションの開発・実用化に向け、グループの総力を挙げてPOC（概念実証）を継続してまいります。

サービス区分の変更 今期より事業セグメントにおけるサービス区分の名称を変更

変更前	ICTサービス事業		
	デジタルマーケティング分野	プラットフォームソリューション分野	システムインテグレーション分野
変更後	ECサービス データアナリティクス	プラットフォームソリューション セキュリティソリューション	システムインテグレーション マイクロソフトソリューション
	デジタルマーケティング分野	プラットフォームソリューション分野	クラウドシステム 分野
	ECサービス データアナリティクス	ITインフラソリューション セキュリティソリューション	システムインテグレーション クラウドソリューション

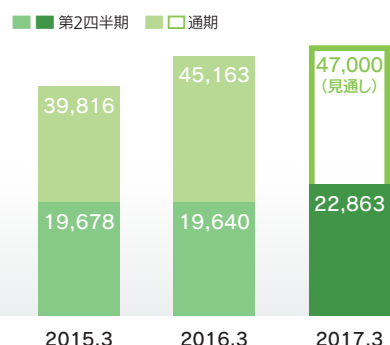
FINANCIAL HIGHLIGHTS

決算ハイライト

- ➡ 大型公共案件の順調な進行、グループ向け案件の受注拡大などにより増収増益
- ➡ 機器販売、グループ向け案件の受注が増加したことにより限界利益率は低下
- ➡ 期首に発表した通期業績予想の達成に向けて、下期も着実に事業を推進する予定

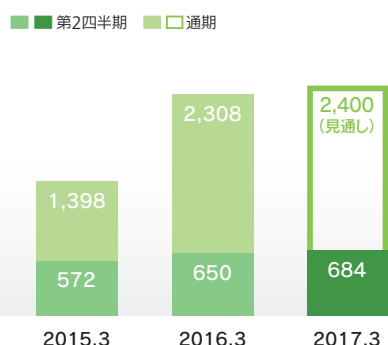
売上高

(百万円)



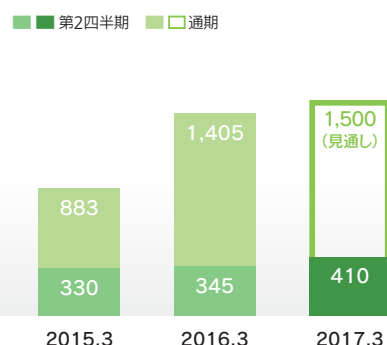
営業利益

(百万円)



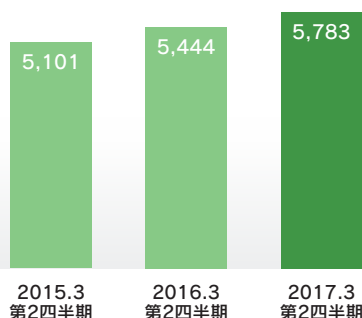
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益

(百万円)



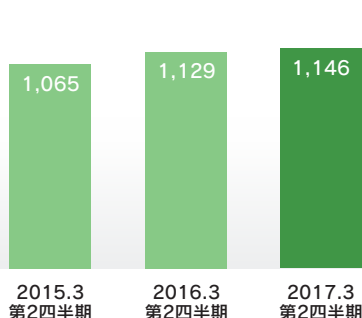
限界利益

(百万円)



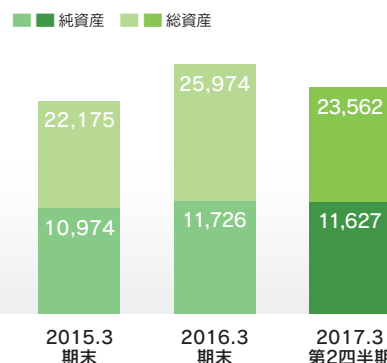
EBITDA※

(百万円)



純資産／総資産

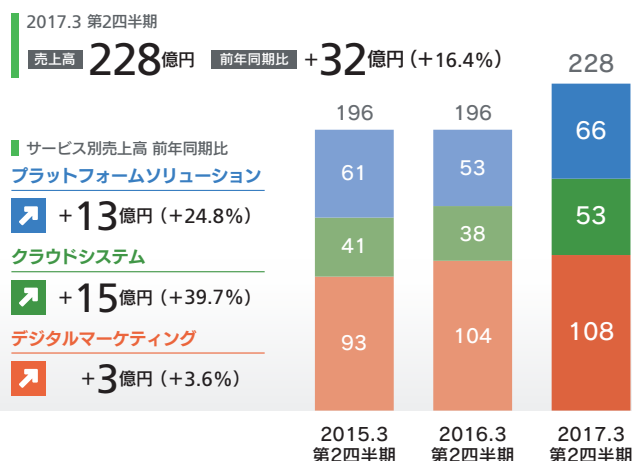
(百万円)



※EBITDAは「営業損益+減価償却費+のれん償却費」で算出しております。

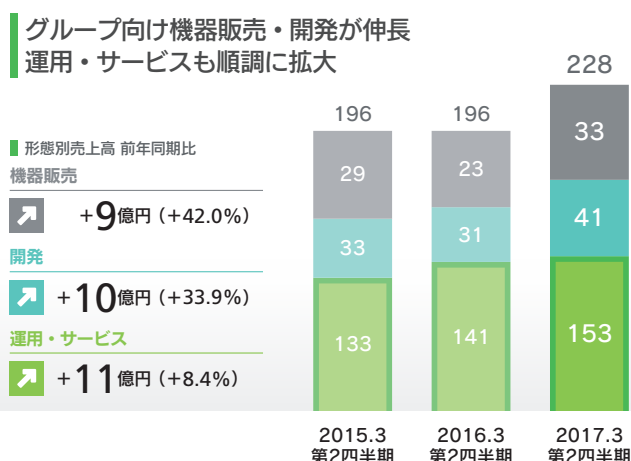
サービス別売上高

(億円)



形態別売上高

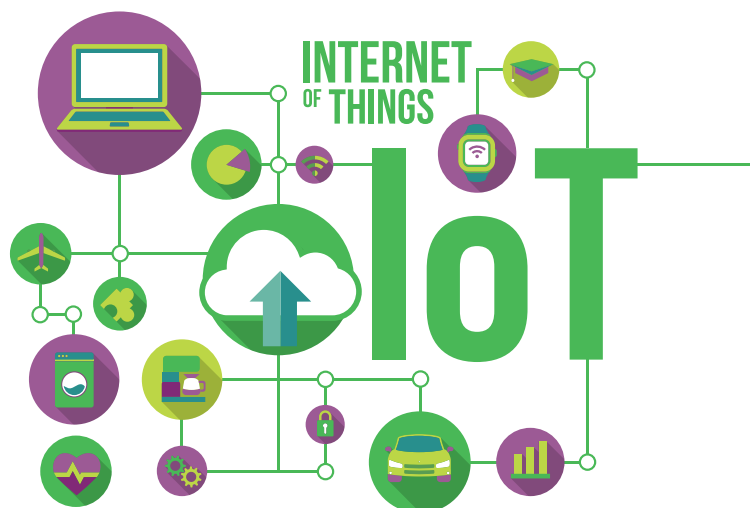
(億円)



IoT What's IoT? って何?

当社が2018年以降に収益化を目指しているIoTの世界。IoTとは何かをご紹介します。

「IoT」とは、Internet of Things (モノのインターネット) の略で、「アイオーティー」と読みます。コンピュータだけでなく、家電や車など様々な「モノ」がインターネットにつながり、相互に制御する仕組みのことを意味しています。「モノ」がインターネットにつながると、離れた場所にある「モノ」の状態を知ったり、「モノ」を操作したりすることができます。IoTの世界ではこんなことができるようになります。



IoTのイメージ

収集した膨大なデータを分析・活用



より便利な生活へ

家庭で

- 冷蔵庫やエアコンが、自動で温度を調節
- 腕時計が、適切な運動量をアドバイス
- ビデオカメラが、留守中の侵入者を検知

街で

- 自動車が、渋滞を迂回できる道を案内
- 市バスが、運行状況をリアルタイムで案内
- ビル空調が、自動制御で無駄を削減

仕事で

- 田畑のセンサーが、農作物の発育状況を管理
- 建設現場のセンサーが、作業員の安全を確保
- 工場の生産ラインが、機材の故障時期を予測

当社は、IoTの開発に必要なクラウドプラットフォーム、「モノ」の通信により得られるデータの蓄積・分析サービスの提供を行うことで、複雑で膨大なデータから新しい価値を創出し、課題解決やお客様のビジネスの拡大を支援していきたいと考えています。

NEWS FLASH 2016.4→2016.9

4 April

Microsoft Partner

Gold Enterprise Mobility Management

2016/4/14

日本初! Gold Enterprise Mobility Management コンピテンシーを取得

2016/4/15

大日本印刷とサイバートラスト、個人番号カードの公的個人認証サービスを活用した本人確認事業での協業に合意

5 May

2016/5/16

サイバートラスト、国内初、データ消去の第三者機関での認証を推進

2016/5/19

日本初! 「McAfee SIEMサービスデリバリー・スペシャライゼーション」パートナー認定

2016/5/25

ソフトバンク・テクノロジーとマイファーム、農地分野の合併会社設立に合意

6 June

グローバルで4冠を達成!



2016/6/2

国内初! 2016 Microsoft Worldwide Partner Award で4冠受賞 (自社調べ)

2016/6/6

ソフトバンク・テクノロジーとテラスマイル、業務提携で農業経営の可視化を実現

クローズアップ IoT

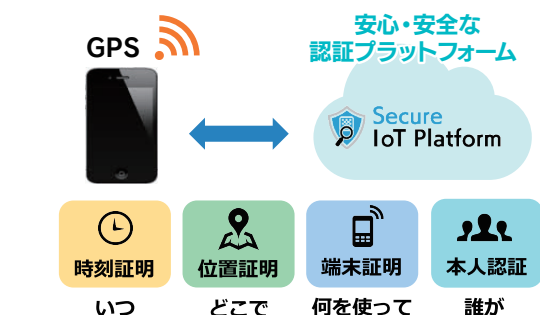
スーパーラグビーで動態情報モニタリングの実証実験

世界最高峰リーグ戦である「スーパーラグビー2016」が世界各地で開催され、日本では2016年2月～7月にかけて、秩父宮ラグビー場にて日本チーム対海外チーム戦5試合が開催されました。1試合あたり100名以上のボランティアスタッフの参加がありましたが、試合毎に人の入れ替わりや割り当てられる役割も変わることが多く、本人確認を確実にすることが重要となります。

そこで、今後の国際的なイベントでの導入を視野に、当社と子会社のサイバートラストを含めた5社でボランティア最適配置の実証実験を行いました。

本実証実験で、サイバートラストは高度なセキュリティ対策が施された電子認証サービス「セキュア IoT プラットフォーム」を活用し、動態情報をモニタリングするスマートフォンの認証を担当しました。

当社はGPSデータをもとに行動を解析することで、ボラ



ンティア配置の最適化など、解析結果を活用した改善対応を担いました。

その結果、従来の仕組みと比較し、受付時間が約8割削減され、動態情報モニタリングにより、混雑状況や休憩・交代に応じた人員の最適な配置指示を実現しました。



7 July

2016/7/7

M-SOLUTIONS、Pepper がマルチリンガルコンシェルジュとして外国人観光客をおもてなし

2016/7/14

サイバートラスト、NEDOの「クリーンデバイス社会実装推進事業」に参加

2016/7/21

Microsoft Azureを「Azure Express Route簡単導入パック」で高速・安全に！

8 August

2016/8/24

サイバートラスト、都市型災害の発生を想定した避難訓練での行動を見える化

2016/8/29

「マイクロソフト パートナー オブ ザ イヤー 2016」国内最多3冠受賞！



国内最多3冠受賞！

- ・Messagingアワード
- ・Public Sectorアワード
- ・Cloud Platformアワード

9 September



REDEN

2016/9/1

ソフトバンク・テクノロジー、3社協業でICT農業支援事業を本格始動

2016/9/29

ARM Limitedとのパートナー契約締結に関するお知らせ

「ツール・ド・東北2016」への協賛

2016年9月17、18日開催の「ツール・ド・東北2016」（主催：株式会社河北新報社、ヤフー株式会社）に協賛しました。「ツール・ド・東北」は、2011年3月11日に発生した東日本大震災の復興支援および、震災の記憶を未来に残していくことを目的とした自転車イベントです。今回当社は、「気仙沼ワンウェイフォンド（95km）」のコースを走りました。雨にもかかわらず、沿道では多くの方が温かく手を振り、休憩所では地元の方々との交流が深まりました。



CORPORATE DATA / SHARE INFORMATION 会社情報／株式情報

会社概要

(2016年9月30日現在)

商号	ソフトバンク・テクノロジー株式会社
本店所在地	東京都新宿区新宿六丁目27番30号
事業内容	ICTサービス事業
ホームページ	http://www.softbanktech.co.jp/
資本金	702百万円
従業員数	連結918名

役員

(2016年9月30日現在)

代表取締役社長CEO	阿多 親市	常勤監査役(社外)	上野 光正
取締役	長田 隆明	監査役(社外)	廣瀬 治彦
取締役	青木 克志	監査役(社外)	中野 通明
取締役	佐藤 光浩	監査役	三村 一平
取締役	後藤 行正		
取締役(社外)	三木 雄信		
取締役(社外)	鈴木 茂男		

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
期末配当金基準日	3月31日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社
同連絡先	みずほ信託銀行 証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL.0120-288-324(フリーダイヤル)
上場取引所	東証第一部(コード番号 4726)
公告方法	電子公告により、当社ホームページに掲載いたします。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による掲載ができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 http://www.softbanktech.co.jp/

お知らせ

- ①株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（みずほ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- ②特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、下記連絡先（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にでもお取次ぎいたします。
- （特別口座管理機関 連絡先）
三菱UFJ信託銀行 証券代行部
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
TEL.0120-232-711（フリーダイヤル）
- ③未受領の配当金につきましては、みずほ信託銀行本支店、みずほ銀行本支店およびみずほ証券本支店でお受けいたします。

株式の状況

(2016年9月30日現在)

発行可能株式総数	42,560,800株
発行済株式の総数	10,762,400株
株主数	3,216名

大株主

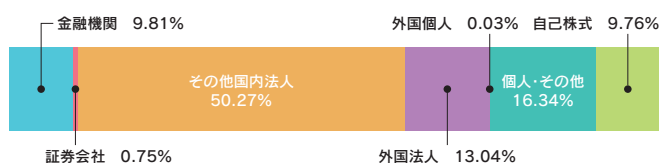
(2016年9月30日現在)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
ソフトバンクグループジャパン合同会社	5,367,500	55.27
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	512,700	5.28
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	201,100	2.07
チェース マンハッタン バンク ジーティーエス クライアーツ アカウント エスクロウ	139,663	1.44
ビービーエイチ フォー フィデリティロープライズストック フアンド(プリンシパル オール セクター サポートフォリオ)	138,700	1.43

※持株比率は、自己株式(1,050,571株)を控除して計算しています。

所有者別持株比率

(2016年9月30日現在)



ソフトバンク・テクノロジー株式会社

〒160-0022 東京都新宿区新宿六丁目27番30号
新宿イーストサイドスクエア 17階

TEL 03-6892-3050 (代表)
URL <http://www.softbanktech.co.jp/>
お問い合わせ先 管理統括 管理本部 経営企画部
MAIL sbt-ir@tech.softbank.co.jp



※記載されている会社名、ロゴ、製品名等は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

※本紙では、フォントワークス様のフォント「ニューロタン」を使用しています。

Copyright© SoftBank Technology Corp. All Rights Reserved